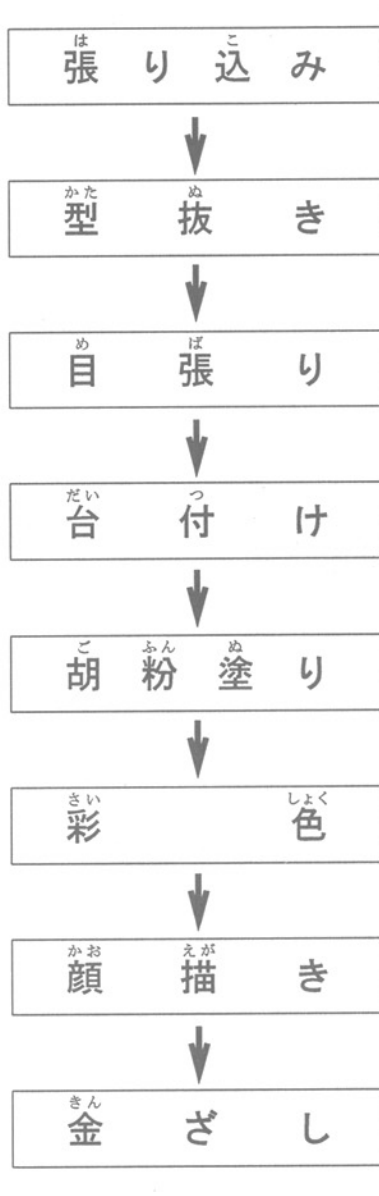


藤枝だるまの製造工程



だるまは、張子が最も一般的です。最近では手作りで張り込みから行うところは少なくなりました。張子だるま製造の特徴は、彩色方法とその材料にあります。もう一つ、職人の技術が生かされる部分があり、顔描きです。これも、それぞれ独特の方法で仕上げられます。最近では、腹の部分の図柄に特徴のあるものが見られます。

張り込み



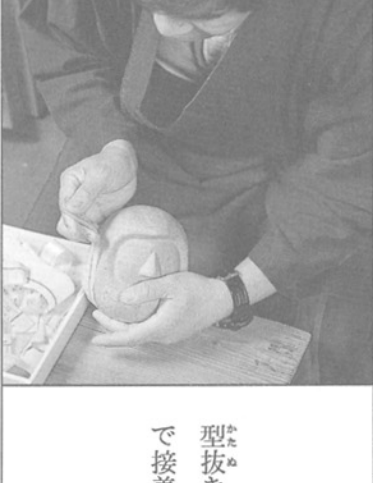
まず、ニカワ（動物の皮や骨を煮つめたもの）を溶けやすくするために前の晩に水で溶いておき、直前に炭火で再度溶く。木型の大きさに合わせ、数枚重ねの和紙（大きいほど厚い）を水に湿しながら張り付ける。丹念に手で押さえ、手や木で叩きながら、木型の形に合わせてゆく。

抜き型



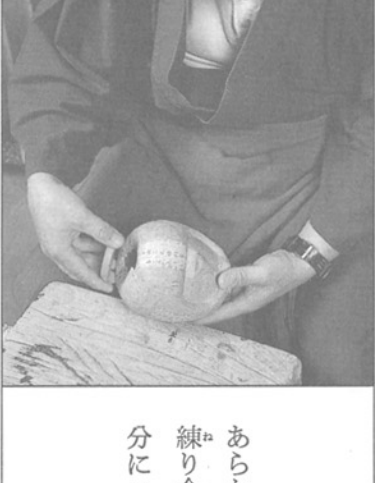
張り込みしたものを乾燥させる。天日乾燥したあと室内自然乾燥するが、季節などにより、乾燥時間は数日から数週間とさまざま。乾いた型の顔の部分を残して小刀を入れて切り裂き、中の木型を抜き取る。

張り目



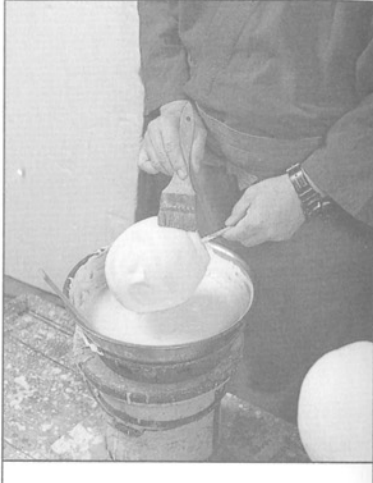
型抜きで切り裂かれた部分を濃い目のニカワで接着し、和紙で糊を使って目張りする。

付け台



あらかじめ作っておいた重り（粘土と和紙を練り合わせて作った台）を、だるまの底の部分にニカワで付ける。

塗り粉胡



表面をなめらかにし、かつ彩色を鮮やかにするため、ニカワに貝を粉にした胡粉を入れて塗る。それが乾燥したところで、濃度の濃いニカワを二度塗る。これは、水性の染料をより鮮やかな赤に発色させる（色止め）ためである。

色彩



二度目に塗ったニカワが半乾きの時、赤の染料で赤一色に塗り上げる。これにより鮮やかなツヤのある赤になる。数日から数週間乾燥させてから、顔の部分の肌色を塗る。

描き顔



いよいよ、目、鼻、口、鬚などを描く。藤枝だるまの特徴である8の字鬚はバランス良く左右対称に描くのが技術の見せどころ。一筆描きで一気に仕上げる。代々受け継がれてきた8の字鬚の形の中にも個性が現れる。

しざ金



金粉で眼のふち取りや正面の「福」「福寿」などの文字、文字を囲む飾を描く。約一日乾燥させれば出来上がる。